

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.60 (2021.3.26)

令和2年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
全てのステークホルダーの満足度向上
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

「当社で働いて頂いている皆さん、毎日のお仕事ご苦労様です。社長の和賀でございます…」この書き出しで始めた社内報「不易流行」も今回第60号で満5年となり、来月からは6年目に入ります。5年前というと3月に北海道新幹線が開業し夜行列車ブルートレインが完全に無くなり、4月には熊本地震が発生した年です。ずいぶん昔の事のようにも思えますが、つい先日のように思えたり不思議な感覚を覚えます。この間に退職した方も新しく入社した方もいますが、当時の組織図を見るとシニア作業員を除いた社員は53名で、5年間で10名増えております。会社の売上は5年平均で15.5億円でその前の5年間平均12.8億円から3億円近く増加、経常利益も平均で500万円程増加しております。また5年前に策定した中期経営計画と比較しても上振れで推移しております。

東日本大震災からちょうど5年の2016年3月11日、私は当時の高久臣一湯沢商工会議所会頭と二人で要望活動の為前日から東京に出張しておりました。その日の午前国土交通省を訪問した際、当日の突然のアポにもかかわらず徳山日出男事務次官にお会いすることができました。徳山さんは5年前に東北地方整備局長として震災に対応した経験を振り返り、防災課長だった熊谷順子氏について次の様にお話をされました。「熊谷さんは規定であれば国交省職員が同乗しなければならないヘリを乗員だけで飛ばす様私に進言した。結果ヘリは津波に飲まれることなく離陸し、被害の状況を撮影し把握することができた。しかしマスコミは機転を利かせた判断であったと報道するだけで、何故そういう行動に至ったのかを一切取り上げない。」

実は国土交通省ではその3年前の岩手宮城内陸地震、および2010年2月27日にチリ沿岸で発生した地震に伴う遠地津波を経験し、大地震や津波防災対策に関する多くの教訓を得ていました。その中のひとつが「チリ津波では養殖いかだが流出するなどの被害が発生、ヘリがすぐに飛び立てなかった教訓から格納庫の中の一番手前に駐機するようにし、震災の2か月前にはヘリの運航委託会社とすぐに連絡が取れるよう緊急時の専用回線を新たに設けていた」ということでした。3月5日NHKが10年を迎えてのWEB記事として「備えたことしか役には立たなかった～ある官僚たちの震災～」という徳山さんの特集をしております。その中で「あのとき機転だけでできたことなんて一つもなかった。災害が起きる前にどれだけ準備できていたかというのが非常に大きかった」とあります。備えていたことしか役には立たなかったと。また1/29の河北新聞には震災伝承館を訪れた際に見たある来館者の「東北頑張れ」という感想を見て、「同情されたいのではなく自分ごと化してもらうために建てたはずなのに」と、残念に思う気持ちが掲載されております。有事に対する対応と心構えを私たちも自分ごと化しなければなりません。

第58期もあと5日で終わり来月からは新年度に入ります。新たな仲間も増えることになっており、気分を一新して実り多き59期となるよう全社一丸となって頑張っ参りましょう。また3月から4月は家族の引っ越し等県外へ出かける機会も増えます。くれぐれもコロナ対策には万全を期して頂けますよう改めてお願い申し上げます。

道路除排雪感謝状贈呈式



3/10 雄勝地域振興局にて、冬期間の除排雪委託3JVに対して感謝状の贈呈式があり、業者代

表として私が一言挨拶を述べさせて頂きました。大変なシーズンでしたが大過なく終わられました。

道路除排雪実施企業に対する感謝状贈呈式



ユニオン建設様来社



3/12 ユニオン建設の福田社長が来社。安全成績累積一万点到達の感謝状を頂きました。鉄道工事部の皆さんの頑張りに感謝です。今後ともご安全に!!



春の交通安全運動



4/6～15日までの10日間開催されます。新入学児童が黄色い帽子をかぶって登下校する季節です。歩行者ファーストで安全運転に心がけましょう。